

- 1) 渡邊 裕, 武井典子, 植田耕一郎, 菊谷 武, 福泉隆喜, 北原 稔, 戸原 玄, 平野浩彦, 渡部芳彦, 吉田光由, 岩佐康行, 飯田良平, 柏崎晴彦, 伊藤加代子, 野原幹司, 山根源之: 介護予防における口腔機能向上サービスの推進に関する研究 - 介護予防における包括サービスの効果について-. 第 22 回日本老年歯科医学会総会学術大会, 東京, 2011.6
- 2) 飯田貴俊, 稲本陽子, 柴田斉子, 加賀谷斉, 才藤栄一, 植田耕一郎: 嚥下運動中の咽頭腔体積変化 (320 マルチスライス CT を用いた検討), 第 63 回日本大学歯学会総会, 2011.5. 21. (東京).
- 3) 井上統温, 平場久雄, 山岡 大, 植田耕一郎: 耳下腺上顔面皮膚への振動刺激による唾液分泌機序の解明- 健常者での評価-, 第 63 回日本大学歯学会総会, 2011.5. 21. (東京).
- 4) 和田聡子, 戸原 玄, 井上統温, 佐藤光保, 飯田貴俊, 植田耕一郎: 食道入口部開大不全に対する開口運動を利用した訓練法の効果, 第 63 回日本大学歯学会総会, 2011.5. 21. (東京).
- 5) 植田耕一郎: 口腔機能向上と補綴歯科, 第 120 回日本補綴歯科学会シンポジウム, 広島, 2011.5. 22.
- 6) 関野 愉, 久野彰子, 菊谷 武, 田村文誉, 藤田佑三, 高橋亮一, 沼部幸博: 要介護高齢者と地域在住高齢者の口腔内状況の比較. 老年歯科医学, 24 巻 3 号 (日本老年歯科医学会第 22 回学術大会にて発表)
- 7) 久野彰子, 関野 愉, 菊谷 武, 田村文誉, 沼部幸博: 介護老人福祉施設の歯周病検診における代表歯検査と全歯検査の比較. 老年歯科医学, 24 巻 3 号 (日本老年歯科医学会第 22 回学術大会にて発表)
- 8) 大原 里子: 第 70 回日本公衆衛生学会・総会平成 23 年 10 月 19 日~21 日秋田市秋田アトリオン
- 9) 北原 稔: 第 70 回日本公衆衛生学会総会(2011 年 10 月 20 日 (木): 秋田)、「健口体操」による住民主体の地域づくり型口腔保健活動の構築〜健口体操普及員の現状から (日本公衆衛生学会誌;2011)
- 10) 山田律子, 内ヶ島伸也, 千葉由美, 鈴木真理子, 平野浩彦, 枝広あや子: 認知症高齢者の摂食・嚥下障害の特徴とケアの方向性 認知症の原因疾患と重症度を踏まえた分析. 日本老年学会第 27 回大会、東京、2011.6.15-17
- 11) 枝広あや子, 平野浩彦, 山田律子, 千葉由美, 佐藤絵美子, 渡邊裕, 小原由紀, 大堀嘉子, 菅武雄, 戸原玄, 新谷浩和, 高田靖, 細野純, 佐々木健, 古賀ゆかり, 那須郁夫, 山根源之, 鈴木隆雄アルツハイマー型認知症患者の自立摂食を支援するために 食行動実態調査の結果から. 日本老年学会第 27 回大会、東京、2011.6.15-17
- 12) 佐藤絵美子, 平野浩彦, 渡邊裕, 戸原玄他: 認知症高齢者嗅覚機能は食行動に影響するか—アルツハイマー型認知症を中心に—, 日本老年歯科医学会第 22 回大会、東京、

- 2011.6.15-17
- 1 3) 蛭谷明希, 山岸晴美, 高田靖, 平野浩彦, 菊谷武: 「口腔機能向上プログラム」の参加者と非参加者の比較—口腔機能と認知機能の変化—, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 1 4) 平野浩彦, 高田靖, 古賀ゆかり, 枝広あや子, 渡邊裕, 新谷浩和, 鈴木隆雄: 認知症高齢者口腔機能の実態報告—4年間の追跡調査で見えてきたこと—, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 1 5) 高田靖, 宮本敦子, 古賀ゆかり, 山岸晴美, 平野浩彦: 「口腔機能向上」サービス継続利用の効果について, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 1 6) 新谷浩和, 平野浩彦, 鈴木央, 山田律子, 枝広あや子, 富田かおり, 細野純: 在宅認知症高齢者の食事支援での多職種連携構築, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 1 7) 勝田優一, 中川量晴, 富田かおり, 向井美恵, 平野浩彦: 在宅認知症高齢者の食行動とその支援第一報: 義歯の装着状況と摂取食物形態の関連, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 1 8) 富田かおり, 中川量晴, 向井美恵, 平野浩彦: 在宅認知症高齢者の食行動とその支援第二報: 認知症レベルと食行動の関連, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 1 9) 中川量晴, 富田かおり, 向井美恵, 平野浩彦: 在宅認知症高齢者の食行動とその支援第三報: 指導内容とその効果, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 2 0) 大堀嘉子, 田中香南江, 飯田良平, 平野浩彦: 認知症高齢者グループホーム入居者における食支援, 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 2 1) 小原由紀, 平野浩彦, 枝広あや子, 渡邊裕, 俣木志朗, 山根源之: 高齢者口腔機能評価としての咬筋触診の有効性の検討 第1報—地域高齢者を対象とした調査から— 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 2 2) 小原由紀, 平野浩彦, 枝広あや子, 渡邊裕, 俣木志朗, 山根源之: 高齢者口腔機能評価としての咬筋触診の有効性の検討 第2報—地域高齢者の生活機能・全身機能との関係— 日本老年歯科医学会第22回大会、東京、2011.6.15-17
- 2 3) 枝広あや子, 平野浩彦, 山田律子, 千葉由美, 佐藤絵美子, 渡邊裕, 小原由紀, 山根源之, 片倉朗, 鈴木隆雄: アルツハイマー型認知症と血管性認知症への食事関連 BPSD アセスメント—食行動観察からの分析—, 日本認知症ケア学会第12回大会、横浜、2011.9.24-25
- 2 4) 平野浩彦, 枝広あや子, 古賀ゆかり, 高田靖, 渡邊裕, 鈴木隆雄: 認知症高齢者における摂食・嚥下機能の経年的変化—4年間の追跡調査から—, 日本

認知症学会第 30 回大会，東京，
2011.11.11-13

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

2. 実用新案登録

なし

1. 特許取得

3.その他

Ⅱ. 分担研究報告書

平成 23 年度厚生労働省科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

介護予防における口腔機能向上・維持管理の推進に関する研究

研究分担者 渡邊 裕 東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学講座 講師

研究要旨

目的：口腔機能向上サービスの通所介護事業所への普及・定着を促進するため、サービスの担い手である歯科衛生士の養成法を検討することを目的に、歯科衛生士の口腔機能向上サービスに関する意識調査、モデル事業による歯科衛生士の養成、効果的な複合プログラムと、その中で口腔機能向上サービスを実施する際の問題点とその解決法についての検討を行った。

方法：平成 22 年度に実施した口腔機能向上サービスのモデル事業に参加した歯科衛生士 19 名に対して歯科衛生士の口腔機能向上サービスに関する意識、歯科衛生士の養成、効果的な複合プログラムとそれを実施する際の問題点と解決法についてのアンケート調査を行った。それらの結果から歯科衛生士が継続的に口腔機能向上サービスに従事する上での問題点と改善策を検討し、運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能向上の 3 つの介護予防サービスを複合して行う場合のプログラムと歯科衛生士に関する問題点を検討し、その改善方法を検討した。

考察：複合サービス導入に必要な要件としては歯科衛生士の確保が重要と思われた。介護現場で働く歯科衛生士を確保養成するには、実際の介護現場での体験や研修が有効で、口腔機能向上加算サービスに必要な知識や技術支援が必要と思われた。さらに歯科衛生士が「他職種」と仕事をしやすくするには、歯科衛生士やその業務について、他職種に理解してもらうことが重要であると考えられた。また、口腔機能向上加算サービスの様式例については記載の煩雑さを除き、情報量を増やすような工夫をする必要がある。

複合サービスの勧め方については様々な状態の対象者とそれを取り巻く環境、事業所の状況等を勘案し、価値観や思想・信仰を十分に尊重し、QOL の維持・向上に最大限の配慮し勧めるべきと考えられた。

協力研究者

伊藤加代子(新潟大学医歯学総合病院 加齢
歯科診療室)

岩佐康行 (原土井病院 歯科)

枝広あや子, 酒井克彦, 三條佑介, 佐藤絵美
子(東京歯科大学オーラルメディスン・口腔

外科学講座)

A. 研究目的

口腔機能向上サービスの通所介護事業所

への普及・定着を促進するため、サービスの担い手である歯科衛生士の養成法を検討することを目的に、歯科衛生士の口腔機能向上サービスに関する意識調査、モデル事業による歯科衛生士の養成、効果的な複合プログラムと、その中で口腔機能向上サービスを実施する際の問題点とその解決法についての検討を行った。

B. 研究方法

平成 22 年度に実施した口腔機能向上サービスのモデル事業に参加した歯科衛生士 19 名に対して歯科衛生士の口腔機能向上サービスに関する意識、歯科衛生士の養成、効果的な複合プログラムとそれを実施する際の問題点と解決法についてのアンケート調査を行った。それらの結果から歯科衛生士が継続的に口腔機能向上サービスに従事する上での問題点と改善策を検討し、運動器の機能向上、栄養改善、口腔機能向上の 3 つの介護予防サービスを複合して行う場合のプログラムと歯科衛生士に関する問題点を検討し、その改善方法を検討した。

(倫理面への配慮)

研究対象者に対しては、研究内容を説明し、同意を得た。

<アンケート調査項目>

1. 複合サービス導入に必要な要件
2. 口腔機能向上サービスへの関与状況
3. 口腔機能向上サービスに対する考え
4. 複合サービス導入後の従事への意思
5. 他職種との連携に関する抵抗感
6. 他職種との連携に関する問題点
7. 口腔機能向上サービスの様式例について

8. アセスメント・総合評価・管理指導計画に必要な時間
9. 複合サービスに関する研修マニュアルの内容
10. 複合サービスに必要な目標
11. 複合サービスの説明
12. その他意見

(倫理面への配慮)

本人に本研究の主旨を文書にて説明し同意を得た。

C. 研究結果

1. 複合サービス導入に必要な要件

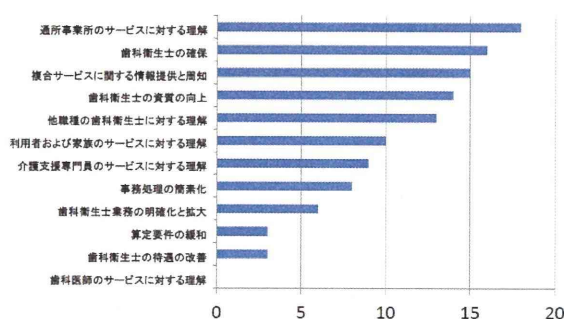
予防給付、介護給付において口腔機能向上加算サービスを含む複合サービスが円滑に導入されるために重要と思われるもの 3 つを順に回答を求めたところ 1~3 の合計では歯科衛生士の確保が最も多く 8 名 (42.1%)、ついで通所事業所のサービスに対する理解と利用者および家族のサービスに対する理解が (36.8%)、歯科衛生士の資質の向上と他職種の歯科衛生士に対する理解が (31.6%) という結果であった (図表 1.1)。

順位	歯科衛生士の確保	通所事業所のサービスに対する理解	利用者および家族のサービスに対する理解	歯科衛生士の資質の向上	他職種の歯科衛生士に対する理解	複合サービスに関する情報提供と周知	事務処理の簡便化	介護支援専門員のサービスに対する理解	歯科衛生士の業務の明確化と拡大	歯科衛生士の待遇の改善	算定要件の緩和	歯科医師のサービスに対する理解
1	3	4		3	2	5	1				1	
2	2	3	3	2	3		1	4	1			
3	3		4	1	1		3	1	4	3		
合計	8	7	7	6	6	5	5	5	5	3	1	0

図表 1.1 複合サービスが円滑に導入されるために重要と思われるもの

順位を重みづけするため、1位を 3 ポイント、2位を 2 ポイント、3位を 1 ポイントとし集計したところ、通所事業所

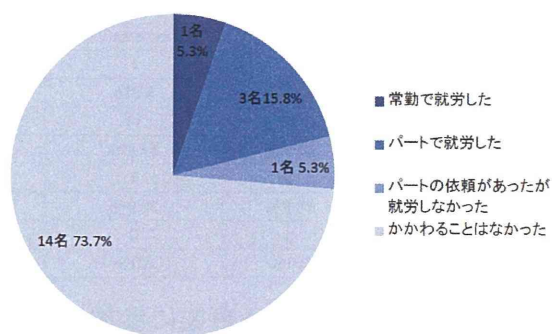
のサービスに対する理解が最も高く 18 ポイントで、ついで歯科衛生士の確保 16 ポイント、複合サービスに関する情報提供と周知 15 ポイント、歯科衛生士の資質の向上 14 ポイント、他職種 of 歯科衛生士に対する理解 13 ポイントという結果であった。(図表 1.2)。



図表 1.2 複合サービスが円滑に導入されるために重要と思われるもの(ポイント集計)

2. モデル事業参加後の通所事業所における口腔機能向上加算サービスへの関与状況

モデル事業参加後の通所事業所における口腔機能向上加算サービスへの関与状況を尋ねたところ、常勤で就労した者は 1 名 (5.3%)、パートで就労した者は 3 名 (15.8%) でモデル事業後 4 名 (21.1%) が通所事業所における口腔機能向上加算サービスに関与していた。他は 1 名 (5.3%) がパートの依頼があったが就労しなかったと回答したが、残りの 14 名 (73.7%) は口腔機能向上加算サービスへの関与はなかったと回答した (図表 1.3)。



図表 1.3 口腔機能向上サービスへの関与状況

3. モデル事業に参加後の口腔機能向上加算サービスに対する関心や考えについて

モデル事業に参加後の口腔機能向上加算サービスに対する関心や考えの変化について尋ねたところ、口腔機能向上加算サービスに関して理解が大いに深まったと回答したのは 6 名 (31.6%) で、理解が深まったと思うと回答した者は 10 名 (52.6%)、あまり理解が深まったとは思わないと回答したのは 3 名 (15.8%) であった。

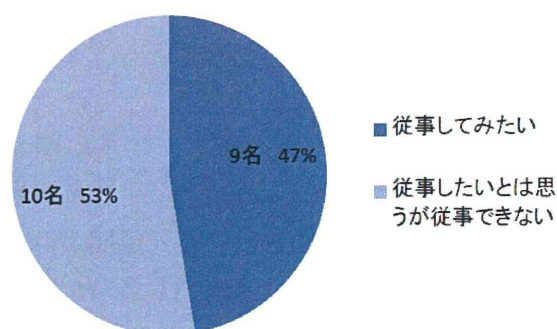
口腔機能向上加算サービスに関する疑問がはれたと大いに思ったと回答したのは 1 名 (5.3%) で、疑問がはれたと思うと回答した者は 11 名 (57.9%)、あまり疑問がはれたとは思わないと回答したのは 7 名 (36.8%) であった。

口腔機能向上加算サービスを行ってみたいと大いに思ったと回答したのは 5 名 (26.3%) で、行ってみたいと思ったと回答した者は 11 名 (57.9%)、あまり思わないと回答したのは 3 名 (15.8%) であった (図表 1.4)。

	理解が深まったと	これまでの疑問がはれたと	やってみたくないと
大いに思う	6	1	5
	31.6%	5.3%	26.3%
思う	10	11	11
	52.6%	57.9%	57.9%
あまり思えない	3	7	3
	15.8%	36.8%	15.8%
思えない	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%

図表 1.4 モデル事業に参加して以降、口腔機能向上加算サービスに対する関心や考えについて

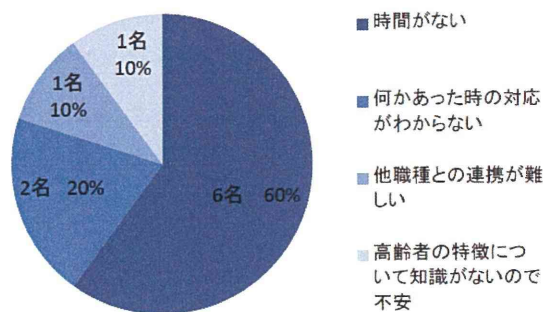
4. 複合サービス導入後の口腔機能向上加算サービス従事の意向
 複合サービス導入後、通所事業所における口腔機能向上加算サービスへの従事の意向について尋ねたところ、従事してみたと回答した者は 9 名 (47.4%)、従事したいとは思いますが従事できないと回答した者は 10 名 (52.6%) であった (図表 1.5)。



図表 1.5 複合サービス導入後の口腔機能向上加算サービス従事への意向

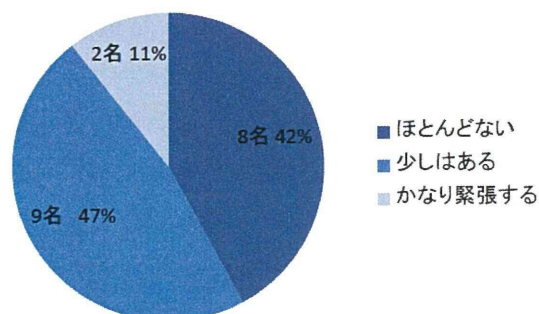
従事したいとは思いますが従事できないと回答した者 10 名に対して、従事できない理由を尋ねたところ、時間がないが 6 名 (60%)、何かあった時の対応がわからないが 2 名 (20%)、他職種との連携が難しいと高齢者の特徴について知識がないので不安がそれぞれ 1 名 (10%)

であった (図表 1.6)。



図表 1.6 口腔機能向上加算サービスに従事できない理由

5. 「他職種」を理解して、一体感をもって仕事をする事についての抵抗感について
 モデル事業参加後 1 年経過し、医療や介護現場で「他職種」を理解して、一体感をもって仕事をする事についての抵抗感をどのように感じているか尋ねたところ、ほとんどないと回答した者は 8 名 (42.1%)、少しはあると回答したのは 9 名 (47.4%)、かなり緊張すると回答したものは 2 名 (10.5%) であった (図表 1.7)。



図表 1.7 「他職種」と仕事をする事についての抵抗感

抵抗を感じる具体的内容については以下のような意見があった。
 ・他職種を理解する事はできるが逆の立場で受け入れてもらえるかどうか

心配である。

・運営者又は、経営者の理解や考え方によるものが大きいと感じる。他職種が歯科衛生士のことをどのように理解しているのかわからない。

・口腔機能について尋ねると、口＝歯の治療との印象が強く、機能がどの程度残っているのかといったことを理解してくれる人が少ない

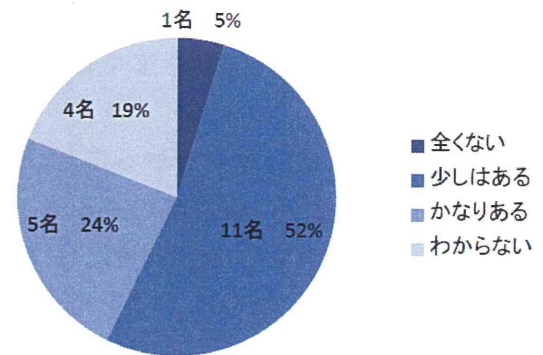
・理解ある人も日常の仕事面での業務の量を考えて、尻込みしている人もいる

・とても理解があり過大な協力もある事も事実です。他職種の方との横の連携の取り方、互いの情報交換

・他職種の仕事の邪魔にならないか
・歯科衛生士に対する理解があるか
・その他の業務が多忙で口腔機能の時間の管理が難しいと感じる。他職種との連携がなく又、必要性を感じてもらえない。単に数値的評価しかみていないので一体感をもって仕事をしにくい

6. 「他職種」と仕事をする時に感じている問題点、気を付けていること、工夫していること

現在、医療や介護の現場で「他職種」と仕事をする時に感じている問題点や気を付けていること、工夫していることについて尋ねたところ、全くないと回答した者は 1 名 (5.3%)、少しはあると回答したものは 11 名 (57.8%)、かなりあると回答した者は 5 名 (26.3%)、わからないと回答した者は 4 名 (21.1%) であった (図表 1.8)。



図表 1.8 「他職種」と仕事をする時に感じている問題点など

問題点としては具体的に

- ・同じ目標を持ってサービスを実施できない。
- ・事前の打ち合わせ (カンファレンスや申し送り) が十分でないこと
- ・相手の職種を理解してないことが多々あるので連携が難しいことがある
- ・介護職の口腔ケアに対する感心の少なさ
- ・事業所 (施設) 側の口腔機能向上プログラムについて点数のわりに労力を要する事から重要性を感じていない点
- ・人と人のかかわりなので人間関係が困難
- ・口腔ケアの重要性の理解不足と軽視、改善されるかの疑われている
- ・運動がメインなのでその合間で利用者様への対応なので時間がほしい
- ・他職種との連携が必要と思うが、十分な情報の共有や連携が取れず単独となってしまう。
- ・はじめの頃はスタッフもよそよそしく看護師さんも事後報告が多かった
- ・医師との連携をとりにくい
- ・口腔に関して多職種の方がさける時間に限りがある

気をつけていることとしては

- ・他職種の業務内容をよく理解すること
- ・他職種の人と連携を取ること
- ・仕事の上での境界線のハッキリしない部分での仕事は特に慎重に行うこと
- ・出すぎず、相手に了解を得る事から始め、挨拶と相談、感謝に気をつけている
- ・他職種の仕事の負担にならないようにする。口腔ケアに感心を持ってもらう。他職種の方本人の口腔の相談にのる。
- ・他職種のプログラムにも参加し、あまり話のずれがないように心がける。
- ・お互いの立場を尊重する
- ・他職種の仕事の領域には踏み込まない。
- ・協調性を持つ
- ・挨拶
- ・自宅での運動と一緒に口腔を取り入れてもらえるように運動の様子をできるだけ見て口腔との関連性を理解していただく
- ・専門性を重視する
- ・全身疾患でわからないことは看護師に聞く
- ・状況共有するために情報交換することを気をつけている
- ・情報交換ができるようスタッフ間のコミュニケーションを大切にする
- ・多職種の方に口腔は全身の一部であることを理解していただく
- ・こちらより声をかけて情報を収集している

工夫していることとしては

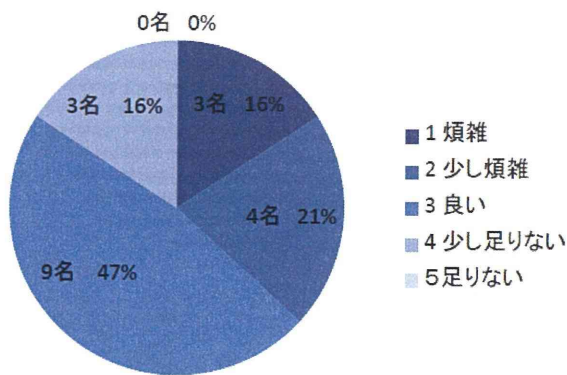
- ・利用者を通して他職種とよくコミュ

ニケーションをとり、情報収集する

- ・相手の立場を尊重する
- ・他の介護職員に口腔ケアの重要性を理解してもらう
- ・尋ねられた事は何度も繰り返し説明する。
- ・専門職以外でもできる範囲で理解していただき、実技を修得してもらう。口腔ケアに感心のある方により理解していただき輪を広げる。
- ・挨拶をきちんとする
- ・口腔以外の全身状態（疾患など）についてわからないことなどは他職種に相談する
- ・利用者の情報の共有（メモや申し送り）
- ・判定や質問だけでなくゲームも取り入れる
- ・モニタリング時に変わったことがなかったか、できる限り多くのスタッフさんに自分から声かけをしてコミュニケーションをとる
- ・出来るところから少しずつ提供していく
- ・多職種の方の余裕のある時間を知るため施設のスケジュールを把握する

7. 現行の口腔機能向上加算サービスの様式例について

複合サービス導入を念頭に現行の口腔機能向上加算サービスの様式例についての意見を求めたところ、煩雑と回答した者は3名（15.8%）、少し煩雑4名（21.1%）、良い9名（47.4%）、少し足りない3名（15.8%）という結果であった（図表 1.9）。



図表 1.9 様式例に関する意見

様式例で煩雑と思われる項目については以下のような回答が得られた。

- 1 関連職種等による質問と観察 (4名)
- 2 専門職による課題把握のためのアセスメント (4名)
- 3 総合評価 (2名)
- 4 口腔機能改善管理指導計画 (3名)
- 5 口腔機能向上サービスの実施記録 (4名)

また、全体的に字をもっと大きくしたほうがよいといった意見や、関連職種等による質問と観察と総合評価は利用者の主観に頼るところが大きいため項目をまとめて事前、事後の評価にしたほうがよい。専門職による課題把握のためのアセスメントは事前、モニタリング、事後の記入覧と縦軸で合わせる。口腔機能改善管理指導計画と口腔機能向上サービスの実施記録の専門職実施項目の言葉をそろえたほうがよいといった意見があった。また、現行の様式では対応しきれない所もあるので、書類の量が多いか少ないか判断できないといった意見や、注意すべき点や変化等の項目を多くとり誰が見てもどこが向上したかわかるようにしたらよいといった意見があった。

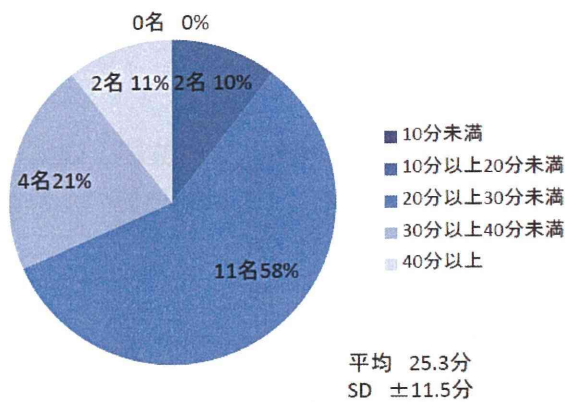
反対に様式例で足りないと思われる項目については以下のような回答が得られた。

- 1 関連職種等による質問と観察 (2名)
- 2 専門職による課題把握のためのアセスメント (1名)
- 3 総合評価 (1名)
- 4 口腔機能改善管理指導計画 (1名)
- 5 口腔機能向上サービスの実施記録 (2名)

また、実施記録の項目内容が細かくした方がよい 関連職種等による質問と観察ではお互いのやり取り、総合評価ではチェックだけでなく言葉を足す、口腔機能向上サービスの実施記録では訓練内容は個人で違うので具体的に観察項目の5つくらい(どの程度か)あるいは詳細を記入するスペースを作るといった意見があった。

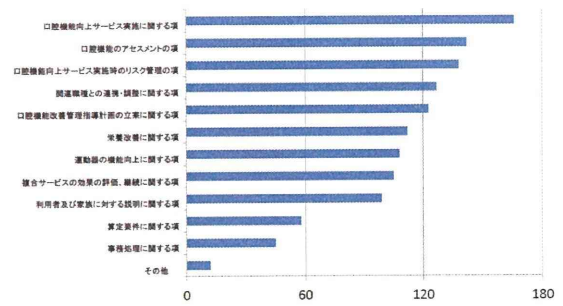
8. 様式例記載に必要な時間

コミュニケーションが可能な利用者1名に対して、様式例の「専門職による課題把握のためのアセスメント」、「総合評価」、「口腔機能改善管理指導計画」のアセスメントと記載に必要なと思われる時間を尋ねたところ、10分未満と回答した者はいなかった。10分以上20分未満は2名(10.5%)、20分以上30分未満は11名(57.9%)、30分以上40分未満は4名(21.1%)、40分以上は2名(10.5%)で、平均±標準偏差は25.3±11.5分という結果であった(図表1.10)。



図表 1.10 様式例記載に必要な時間

9. 複合サービスに関する歯科衛生士向けの研修マニュアルに必要な項目
複合サービス導入にあたり、歯科衛生士向けの研修マニュアルに必要と思われる項目を重要と思われる順に回答を求めた。1位を12ポイント、2位を11ポイントと順に重みづけをして集計し比較したところ、口腔機能向上サービス実施に関する項が最も重要との回答が多く166ポイント、ついで口腔機能のアセスメントの項142ポイント、口腔機能向上サービス実施時のリスク管理の項138ポイント、関連職種との連携・調整に関する項127ポイント、口腔機能改善管理指導計画の立案に関する項123ポイント、栄養改善に関する項112ポイント、運動器の機能向上に関する項108ポイント、複合サービスの効果の評価、継続に関する項105ポイント、以下利用者及び家族に対する説明に関する項、算定要件に関する項、事務処理に関する項の順であった(図表1.11)。



図表 1.11 複合サービスに関する歯科衛生士向けの研修マニュアルに必要な項目

歯科衛生士向けの研修マニュアルについての自由記載では以下のような意見があった。

- ・内容は初心者でも理解、実施できるよう図などを使い具体的であるとよい。
- ・実施例があるとよい
- ・歯周病・糖尿病・喫煙については研修会などがあり少しずつ身につけていますが、知らない病気や心理的なものなど幅広く勉強していないと対応できないことがあるので、多くの情報がほしい。
- ・複合サービスは是非必要と思います。衛生士の機能向上は理解していますが他の機能向上(注意点等)について知りたい

10. 複合サービスの効果を上げる共通な目標やテーマ

複合サービスの効果を上げるための共通な目標やテーマについて意見を求めたところ、具体的な目標やテーマについては以下のような案が出された。

- ・1日の生活の中での口との関わりと食事の取り方(偏食気味の方々)
- ・食事をする時にいつも食べている一

口量を少し同量の食事でも1回の食事
で全体の嚙む回数の向上をはかるなど
する。

- ・食べたい食品ランキングして、どう
したら食べられるか調理の工夫と栄養
のバランス献立作り、季節の食材探し
など行う

- ・栄養は食材による料理の仕方(嚙むこ
との大切さとかかわりにより)

- ・運動は嚙むこと姿勢との関連性

- ・栄養と口腔の教室では上記のような
ことをおこなっていて改善がみられて
いる

各サービスが協調するために必要なも
のついて意見を求めたところ、

- ・各職種が担当するサービス以外の利
用者の心身および生活全般での変化に
も目を向け情報を共有できるようコミ
ュニケーションをとること

- ・事前の十分な打ち合わせが必要。

- ・運動するときは「自分で声を出して1、
2、3、4と号令をかけながら行う」

- ・資料や利用者情報の共有が大切

- ・無理なく楽しくできる内容

- ・各担当者が集まり情報交換等のカン
ファレンスの場を設ける

11. 利用者および家族に対する複合サー ビスの勧め方について

利用者および家族に対して口腔機能向
上を含めた複合サービスを勧めるにあ
たり、どのように説明するか尋ねたと
ころ、以下のような意見が得られた。

- ・効果の例を資料などを用いて説明し、
おいしく食べて元気に長生きするた
めに始めてみませんかと提案する。

- ・複合サービスは安全で簡単なもので
あり、続けることにより生活の質の改

善ができると説明する

- ・家族と同じ食卓で料理をおいしいと
感じながらいただき、たのしい会話が
出来る時間を持てる様にしましょう

- ・偏よった考えばかりでなく自分の
体を全部見て、少し面倒でもきつくて
も少しずつ続ける事が大切です。

- ・今の自分が今後どのようなになってい
くか、またどのようなにありたいかをお
聞きし、そのためにはどのようなこと
をしたらよいのか、またどんなことな
らできるかともに考え決定していく。

- ・運動器に興味をもたれる方が多いの
で、運動器を上げるには栄養を十分に
取り、口腔機能を上げる。口腔機能が
上がれば運動器も上がり、毎日も楽し
くなる、と説明する。

- ・何が一番楽しみですか？(食べられる
事が楽しみではないでしょうか?)自分
の口で嚙んで食べる事が脳の血流をよ
くしたり、唾液を出したり嚙む力をつ
けたり……と口だけではなく全身に関
係してきます。柔らかいものばかりで
はなく嚙めるような食事と体の一部、
首や上体の運動もして、むせを予防。
おいしく、上手に飲み込み、誤嚥性肺
炎も予防しましょう。そのための歯、
栄養、運動の連携が大事です。

- ・おいしい献立を作っても、しっかり
食べられるお口でなければ栄養が摂れ
ないし、体力も低下してしまいます。
口腔と栄養のプログラムを組み合わせ
て実施されたほうが栄養改善の効果が
上がりますので複合プログラムをお勧
めしています。

- ・口腔機能と全身とのかかわりにつ
いてはなし、いつまでも口から食べるこ

との幸せの話などお伝えする。

・口からいつまでも食べたいと望むか質問してみる。

・脳・顎・足：ひとつかけてもだめだということを説明する。

・おいしく食事をとれることは健康で長生きできると思います。口の機能を知り高めることによりアルブミン値もあがり（いくらバランスが良い食事を食べても食べられる口の機能がないと元気になれない）元気になると運動能力も高まります。これからも元気でいられるために改めて、情報を知り日常生活にいかしてみませんか？一緒にお手伝い致します。

・口腔機能が向上すると食事がおいしくなり栄養状態が良好になります。栄養状態が良好になると運動をしても効果が出やすいです

・口から食事をする事で栄養状態が改善、維持され、それにより全身の免疫力や転倒予防になることを例に挙げ説明する

・口の渇きやムセが少なくなる 口腔清掃の意味がわかることによって風邪、インフルエンザの予防につながる

・食事をして十分な栄養を摂取し、健康を保つため運動や口腔、栄養に関することを一緒に考えてみましょう

12. その他、気づいた点や意見

その他、気づいた点や意見を求めたところ以下のような意見が得られた。

・複合プログラムが広く実施され元気な高齢者が増えることを願います。

・現在他職種の中で働いていますがやっぱり人です。協力体制万全の時は成功が早く、達成感が一緒に味わえ、気

分がいい、感謝の気持ちにつきます。

・非協力スタッフ、職種(人)の時はスムーズに進行せず、ストレスばかりが増し、歯科衛生士の分だけやればいい事にしよう、と楽な方へ流れてしまいます。

・反発されても立ち向かうエネルギーが不足している。

・とても良い事業だと思うので、このような求人があれば歯科衛生士の将来も明るくなると思う。

・介護予防事業：歯科医師 衛生士 個人でデイサービス 市町村デイサービス 会社からの派遣（他職種）いろいろな形で関わらせていただいています。がどの形も難しく感じます。他職種の中で参加させていただくのが、その方のいろいろな姿が見られると思う。また一番生活の中に密着できる体操等紹介できると思う。

D. 考察

口腔機能向上サービスは口腔機能の改善だけでなく、高齢者の生活自立度の改善、生活意欲の向上を促すことが明らかになってきており、口腔機能向上のプログラムを適切に提供することは、介護予防の観点から大変重要である。そこで平成 18 年 4 月に介護保険に新予防給付として運動器の機能向上、栄養改善とともに口腔機能向上サービスが導入された。さらに平成 21 年 4 月には更なる普及を目的として、介護予防サービスの提供を行いやすいように介護報酬改定が行われた。しかし、改定以降も栄養改善および口腔機能向上サービスは必要な対象者に必ずしも適切なサービスが提供されなかった。そこで平成 24 年度の介護報酬改

定で口腔機能向上のプログラムに運動器の機能向上、栄養改善の各プログラムを組み合わせ提供することを評価することになった。これは複合プログラムが単独プログラムに比べて、要介護度の軽度化の割合が高く、転倒骨折、誤嚥性肺炎等の要介護状態となるリスクを低減し、介護予防効果が高いことが証明されたことによるが、口腔機能向上のプログラムの効果を最大限に発揮するには歯科衛生士の配置が必須であり、今後これら介護現場に歯科衛生士を配置するために人材育成と環境整備を早急に行っていかなければならない。そこで、平成 22 年度に実施した複合プログラムのモデル事業に参加した歯科衛生士 19 名に対してアンケート調査を行った。

1. 複合サービス導入に必要な要件

複合サービス導入に必要な要件としては歯科衛生士の確保が最も多く、ついで通所事業所のサービスに対する理解であった。就労している歯科衛生士は増加傾向にあり 10 万人を超えたものの、有資格者 22 万人からすると離職率は高い。育児がきっかけの離職が多いと考えられるが、通所事業所は勤務時間も短く、パートでの就労も可能であることから、育児中の歯科衛生士の掘り起こしとそのキャリアの維持をするためにも、通所事業所の口腔機能向上サービスに対する理解を得ることが肝要と考える。平成 24 年度の介護報酬改定では、複合的サービスが高く評価されることが予想されており、これをきっかけに多くの離職中の歯科衛生士が口腔機能向上サービスに関与できるような支援を行っていくことが必要と考える。

2. モデル事業参加後の通所事業所における口腔機能向上加算サービスへの関与状況

昨年度のモデル事業参加後の通所事業所における口腔機能向上加算サービスへの関与状況では、モデル事業後 4 名 (21.1%) が通所事業所における口腔機能向上加算サービスに関与していた。他 1 名パートの依頼があったと回答しており、通所介護事業所の口腔機能向上サービス導入への意向が高まってきている可能性が示唆された。また、モデル事業で口腔機能向上加算サービスに参加したことで、歯科衛生士自身も介護現場での就労に抵抗感が少なくなり、4 名もの歯科衛生士が就労したと思われる。すなわち介護現場で働く歯科衛生士を確保養成するには、実際の介護現場での体験や研修が有効と考える。歯科衛生士会と事業所が共同で事業所見学やボランティアでの介護体験等を企画し、実際の介護現場を未就労や育児中の歯科衛生士に体験してもらうといった働きかけも検討されるところである。

3. モデル事業に参加後の口腔機能向上加算サービスに対する関心や考えについて

モデル事業に参加後、口腔機能向上加算サービスに関して理解が深まったと回答したのは 16 名 (84.2%) で、疑問がはれたと回答したのは 12 名 (63.2%) 実際の介護現場での体験が、口腔機能向上加算サービスの理解に有用であることが裏付けられた。しかし、実際に体験することでさらに疑問が生じたケースもあり、介護現場における歯科衛

生士の養成にはある程度の時間を要するものと思われた。しかし、実際に口腔機能向上加算サービスを実施したことで、16名(84.2%)が介護現場への就労に意欲を見せたことから、実際のサービスの提供体験はサービスの理解だけでなく、就労意欲も大きく高めることから、平成24年度の制度改定以降に予想される、通所事業所の歯科衛生士の確保困難に対しては、就労体験を含めたリクルートが効果的と思われる。

4. 複合サービス導入後の口腔機能向上加算サービス従事の意向

複合サービス導入後、口腔機能向上加算サービスへの従事の意向については、現在の就労状況もあり、約半数が従事できないと回答した。しかし、何かあった時の対応がわからない、他職種との連携が難しい、高齢者の特徴について知識がないので不安といった介護現場で必要な知識や技術に不安があり、従事できないと回答した者もあり、口腔機能向上加算サービスに必要な知識や技術支援も歯科衛生士の確保に必要と思われた。

5. 「他職種」を理解して、一体感をもって仕事をする事についての抵抗感について

「他職種」と仕事をする事についての抵抗感については、9割の歯科衛生士はほとんどないと回答した。残りの1割は他職種が歯科衛生士やそれが行うサービスを理解してくれるかということに不安があり抵抗を感じるということであった。これは歯科衛生士自身が想像していることであることから、気にす

ることはないと思われるが、歯科衛生士やその業務について、他職種に理解してもらえるようなパンフレットやDVDなどを活用することも検討される。

6. 「他職種」と仕事をする時に感じている問題点、気を付けていること、工夫していること

「他職種」と仕事をする時の問題点などは、5名がかなりあると回答した。これも前問と同様、歯科衛生士側の想像という側面が大きいと考えられるが、職種間の相互理解とカンファレンス等での連携が重要という意見が多く、他職種とのコミュニケーションにやや不安を持っていることが示唆された。

7. 現行の口腔機能向上加算サービスの様式例について

複合サービス導入を念頭に現行の口腔機能向上加算サービスの様式例についての意見を求めたところ、煩雑と回答した者は7名(36.9%)、良い9名(47.4%)、少し足りない3名(15.8%)という結果であった。煩雑と思われる項目については、関連職種等による質問と観察、専門職による課題把握のためのアセスメント、口腔機能向上サービスの実施記録との回答が多かった。反対に様式例で足りないと思われる項目については関連職種等による質問と観察、口腔機能向上サービスの実施記録と煩雑との意見が見られた項目が挙げられており、チェックボックスの多用など、手間を除き、情報量を増やすような工夫をする必要があると思われた。

8. 様式例記載に必要な時間

様式例のアセスメントと必要事項の記載に必要と思われる時間を尋ねたところ、平均は 25.3 ± 11.5 分という結果であった。概ね妥当な時間と思われるが、歯科衛生士による個別サービスの時間を多くとることが口腔機能の向上につながると思われることから、様式例の内容および記載方法については、今後さらに検討を加えて改良していく必要があると考える。

9. 複合サービスに関する歯科衛生士向けの研修マニュアルに必要な項目

複合サービス導入にあたり、歯科衛生士向けの研修マニュアルに必要と思われる項目については、口腔機能向上サービス実施に関する項、口腔機能のアセスメントの項、口腔機能向上サービス実施時のリスク管理の項、関連職種との連携・調整に関する項、口腔機能改善管理指導計画の立案に関する項、栄養改善に関する項、運動器の機能向上に関する項、複合サービスの効果の評価、継続に関する項の順であった。つまり口腔機能向上加算サービスの実施に関する項目が重要との回答であった。歯科衛生士自身も不慣れな介護現場での口腔機能向上サービス実施やその効果について不安を持っているものと思われた。

10. 複合サービスの効果を上げる共通な目標やテーマ

複合サービスの効果を上げるための共通な目標やテーマについて意見を求めたところ、栄養と口腔の関係に関するテーマが多くみられたが、具体的で分かりやすい目標は挙げられなかった。また、複合サービス導入には運動器の機

能向上サービスとの組み合わせが最も多いと予想されることから、運動器と共通な目標やテーマが必要と考える。また二次予防事業と異なり、対象者の介護度等、身体状況も低下しており、また様々であることから、状態別に共通の目標やテーマを考案する必要がある。また複合サービスでは、単独サービスと比較して内容も増えることから、各サービスに割り当てられる時間が少なくなることが予想され、また集団サービスと個別サービスの組み合わせになることが多くなると考えられることから、集団・個別サービスともに、より共通の目的に向かった戦略的なサービス内容を吟味する必要があると考える。

11. 利用者および家族に対する複合サービスの勧め方について

口腔機能向上を含めた複合サービスを勧めるにあたり、どのように説明するか尋ねたところ、「おいしく食べて元気に長生きするために始めてみませんか」「家族と同じ食卓で料理をおいしいと感じながらいただき、たのしい会話ができる時間を持てる様にしましょう」「口腔機能と全身とのかかわりについてはなし、いつまでも口から食べることの幸せの話などお伝えする。」などといった案があったが、具体的な内容は認めなかった。また、対象者の状況によっては、会話や食事、運動、栄養摂取が困難な場合も想定されることから、様々な状態の対象者とそれを取り巻く環境、事業所の状況等を勘案しなければならない。個々の価値観や思想・信仰を十分に尊重し、QOLの維持・向

上に最大限の配慮し勧めるべきと考える。また本人だけでなく家族なども含め、関連職種が集学的にサービスを提供していくといったコンセプトを説明することが重要と考える。

E. 結論

1. 介護現場で活躍する歯科衛生士の育成と環境整備を目的に歯科衛生士 19 名に対してアンケート調査を行った。
2. 複合サービス導入に必要な要件としては歯科衛生士の確保が最も多く、ついで通所事業所のサービスに対する理解であった。
3. 通所介護事業所の口腔機能向上サービス導入への意向が高まってきている。
4. 介護現場で働く歯科衛生士を確保養成するには、実際の介護現場での体験や研修が有効。
5. 介護現場における歯科衛生士の養成にはある程度の時間を要するものと思われた。
6. 口腔機能向上加算サービスに必要な知識や技術支援が歯科衛生士の確保に必要。
7. 歯科衛生士が「他職種」と仕事をすることについての抵抗感を解消するには、歯科衛生士やその業務について、他職種に理解されるようなツールの開発と職種間でのコミュニケーションが必要。
8. 口腔機能向上加算サービスの様式例については煩雑および足りないとは相反する意見があり、チェックボックスの多用など、手間を除き、情報量

を増やすような工夫をする必要がある。様式例に要すると思われる時間は概ね妥当と思われたが、今後さらに検討を加えて改良していく必要がある。

9. 複合サービス導入の際、歯科衛生士向けの研修マニュアルに必要と思われる項目は、口腔機能向上加算サービスの実施に関する項目が重要との回答であった。
10. 複合サービスの効果を上げるための共通な目標やテーマについては具体的で分かりやすい目標は挙げられなかった。
11. 複合サービスの勧め方については様々な状態の対象者とそれを取り巻く環境、事業所の状況等を勘案し、価値観や思想・信仰を十分に尊重し、QOL の維持・向上に最大限の配慮し勧めるべきと考える。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 渡邊 裕, 枝広あや子, 伊藤加代子, 岩佐康行, 渡部芳彦, 平野浩彦, 福泉隆喜, 飯田良平, 戸原 玄, 野原幹司, 大原里子, 北原 稔, 吉田光由, 柏崎晴彦, 斎藤京子, 菊谷 武, 植田耕一郎, 大淵修一, 田中弥生, 武井典子, 那須郁夫, 外木守雄, 山根源之, 片倉 朗: 介護予防の複合プログラムの効果の特徴づける評価項目の検討-口腔機能向上プログラムの評価項目について. 老年歯科医学, 26 : 327-338, 2011.
- 2) 渡邊 裕: 高齢者の口腔の問題について 都薬雑誌 33 : 10-14 2011.

3) 渡邊 裕：【医師に知ってほしい高齢者
歯科の知識】NST における歯科の役割。
Geriatric Medicine, 49 : 545-549, 2011.

2. 学会発表

1) 渡邊 裕, 武井典子, 植田耕一郎, 菊谷
武, 福泉隆喜, 北原 稔, 戸原 玄, 平野
浩彦, 渡部芳彦, 吉田光由, 岩佐康行, 飯
田良平, 柏崎晴彦, 伊藤加代子, 野原幹司,
山根源之：介護予防における口腔機能向
上サービスの推進に関する研究 -介護
予防における包括サービスの効果について

一. 第 22 回日本老年歯科医学会総会学術
大会, 東京, 2011.6

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

平成 23 年度厚生労働省科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

口腔機能向上サービスの普及啓発および歯科衛生士の人材育成に向けて
研究分担者 菊谷 武 日本歯科大学大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学 教授

研究要旨

目的：口腔機能向上のサービス提供と施設の困りごとを解決できる歯科衛生士の人材育成をすることにより事業所の困りごとを解決し、口腔機能向上サービスの普及・定着を推進することを目的とした。

方法：(A) 歯科衛生士に対する事業、(B) 事業所に対する事業、(C) 人材紹介事業、について3年間にわたり行い、その効果を検証した。

結果：(A) 歯科衛生士に対する事業では、口腔機能向上リーダー養成研修会において現在介護予防事業にかかわっている県内 15 名の歯科衛生士に対して、4 日間にわたる研修を実施し、事業所への出張相談実践のために必要な口腔機能マニュアルを作成した。

(B) 事業所に対する事業では、1) 平成 22 年度に実施した事業所見学会の担当者へ再度アプローチ：14 事業所、2) 介護事業所「看護師が行う口腔機能向上サービス研修会」：64 事業所 68 人、3) 希望事業所への出張説明：16 事業所、を行った。(C) 人材紹介事業では、1) 介護施設への求職歯科衛生士数：73 人（平成 23 年度新規 13 人）、2) 介護事業所からの求人件数：3 件、3) 介護事業所への歯科衛生士の紹介数：3 人を行った。

考察：口腔機能向上サービスのさらなる普及と定着を図るためには、説明・相談に対応できる歯科衛生士の増員と事業所への口腔機能向上サービスへの理解を深める機会を提供していく必要がある。

研究協力者

久保山裕子（日本歯科衛生士会副会長福岡県歯科衛生士会 福岡県歯科衛生士会モデル事業委員会）

天本和子（福岡県歯科衛生士会副会長福岡県歯科衛生士会モデル事業委員会）

高野ひろみ（福岡県歯科衛生士会 福岡県歯科衛生士会モデル事業委員会）

梶原美恵子（福岡県歯科衛生士会 福岡県歯科衛生士会モデル事業委員会）

金久弥生（福岡県歯科衛生士会 福岡県歯科衛生士会モデル事業委員会）

池山豊子（愛知県歯科衛生士会）

その1 福岡県でのモデル事業

A. 研究目的

新介護予防給付「口腔機能向上」サービスの提供件数は著しく低く、同サービスは普及・定着されていないのが現状である。平成 19 年度老人保健増進等事業による調査結果において「人材の確保・育成」が課題の一つとして挙げられた。